

「シリア州のアンティオキアに戻る」

2024年03月14日

二人はこの町で福音を告げ知らせ、多くの人を弟子にした後、リストラ、イコニオン、アンティオキアへと引き返ししながら、弟子たちを力づけ、「私たちが神の国に入るには、多くの苦しみを経なくてはならない」と言って、信仰に踏みとどまるように励ました。また、弟子たちのために教会ごとに長老たちを任命し、断食して祈り、彼らをその信ずる主に委ねた。それから、二人はピシディア州を通り、パンフィリア州に至り、ペルゲで御言葉を語った後、アタリアに下り、そこからアンティオキアへ向かって船出した。そこは、二人が今成し遂げた働きをするようにと、神の恵みに委ねられて送り出された所である。到着すると教会の人々を集めて、神が彼らと共にいて行われたすべてのことと、異邦人に信仰の門を開いてくださったことを報告した。そして、しばらくの間、弟子たちと共に過ごした。（使徒14：21～28）

パウロとバルナバはリストラで、人は神ではないことを示し、偶像礼拝を止めさせ、主イエスに現わされた、神のみが神であり、その神が恵みをくださると宣教した。しかし、二人の説く福音は、頑強なユダヤ教徒たちから反発され、以前、宣教した地域のユダヤ人たちが追いかけて来て、パウロに石を投げつけた。死んだと思い、町の外に引きずり出されたが、パウロは起き上がり、翌日、バルナバと共に、デルベへ向かった。

二人はデルベで福音を告げ知らせ、多くの信者を得た。その後、リストラ、イコニオン、アンティオキアに引き返ししながら、信者になった人たちに、「私たちが神の国に入るには、多くの苦しみを経なくてはならない」と言って、信仰に固く踏みとどまるように励ました。「私たちが神の国に入るには、多くの苦しみを経なくてはならない」という言葉は、キリスト教信仰の核心を言い表す言葉である。主イエスは、「私の後に従いたい者は、自分を捨て、自分の十字架を負って、私に従いなさい（マルコ8:34b）」と、十字架の苦難を負って、従いなさいと語っておられる。パウロは、主イエスの勧めを真っ直ぐに受け止めている。彼は、「キリストの苦しみが私たちに満ち溢れているように、私たちの受ける慰めもキリストによって満ち溢れているからです（Ⅱコリント1:5）」と語っている。更に、「私は、キリストとその復活の力を知り、その苦しみにあずかって、その死の姿にあやかりながら、何とかして死者の中からの復活に達したいのです（フィリピ3:10）」と、キリストの十字架の苦しみに与り、その死にあやかって、復活の命に達したいと語っている。パウロの生涯は苦難を負い続ける生涯で、そこに、キリストからの有り余る恵みを受け止めたのである。多くの苦しみを経なさいと諭し、成立した教会ごとに長老たちを任命し、群れを養うように、主に委ねた。二人は南下して、ペルゲで御言葉を語った後、アタリアの港まで下り、そこから、シリアのアンティオキアに向かって、船出した。

アンティオキア教会はユダヤ人と異邦人が共存し、有力な信徒たちが集まり、パウロとバルナバを、祈りをもって宣教に送り出したベース教会である。二人は、この教会に戻って来ると、人々を集めて、ユダヤ人たちからは強い反発を受けたが、神が共にいて働き、多くの人々に受け入れられ、殊に、異邦人たちが信仰に入る門が開かれ、町ごとに教会を建てることのできたことを報告した。アンティオキア教会では、二人の宣教旅行の成果を感謝し、キリストの福音は世界に向かって開かれていることを喜び合った。しばらくの間、二人はここに留まり、教会の仲間と共に過ごした。